



# 物流博物館 小学校団体見学

## 事例レポート 2002

### はじめに

物流博物館は平成10年(1998)の開館以来、小学校5年生の社会科見学を中心に、学校教育における団体見学の対応に力を入れた活動を行ってきました。その結果、小学5年生だけをとりても、昨年・一昨年とも年間55校・3000名を超える児童の皆さんが当館を見学に訪れました。

このパンフレットでは、主に昨年度に当館で見学を行った小学校5年生の事例の中から、タイプの異なるものを選んでその概要と評価を紹介しています。また、新学習指導要領への対応、博物館として魅力ある見学をサポートするには今後どのような方向を模索すべきかといった点についても、現時点での館としての考え方を記してみました。このパンフレットがよりよい見学を実現するために、わずかでもお役に立てば幸いです。

### 物流博物館の展示内容

物流博物館は展示面積326平方メートルほどの小規模な博物館です。公開スペースは、1階の「物流の歴史」展示室、地下1階の「現代の物流」展示室、2階の映像展示室、同じく2階の図書コーナーから構成されています。

「物流の歴史」展示室では、主に江戸時代から昭和30年代までの展示を中心に、旧石器時代から現代までの「物を運ぶ」仕事の歴史を紹介しています。

「現代の物流」展示室では、今日の物流産業の概要を、陸海空の物流ターミナルの大型ジオラマ模型をはじめとする各種模型、映像、パソコンを使ったクイズやゲームなどで展示しています。映像展示室では、大型スクリーンによるビデオ上映、図書コーナーでは図書や各種資料の閲覧ができます。小学生の見学では、これらのほかに、「運ぶ」をきわめる



体験キット」や、物流の現場に詳しい運送会社の社員への質問コーナーなども行います。



宅配便担当者への質問

## 見学事例紹介 (2001年度見学校より)

当館がこれまで行った小学校5年生の団体見学への対応の中から、特徴的なタイプの事例を6例ほど選んでみました。いずれも、見学時間の制約や先生方のご要望をお聞きしながら、各校の事情にあった形で実施したものです。各事例ごとに、タイムスケジュールと概要、よかった点、反省点などをまとめています。

当館における小学生の見学は、2つの展示室(「現代の物流」展示室・「物流の歴史」展示室)の見学と、大型スクリーンによるビデオ上映を基本形として、これらに体験キットの利用や調べ学習、物流の仕事に携わる担当者への質問コーナーなどを組み合わせしていく形を取っています。展示室の見学では、学芸員が必ず付き添い、展示解説や質問への対応を行います。展示解説の方法は小学生向けに作成したワークシートに沿って行う場合、ワークシートは使わず展示の逐次的な解説を行う場合、自由見学(質問のみに答える場合、問いかげなどをしながら必要に応じて解説を行う場合などもあります)等、希望に応じた形で行っています。



ふるしきバッグ/一升ビンを風呂敷で包む

## 「盛りだくさん」型

A校 児童数38名 見学時間3時間

タイムスケジュール

|             | 1組      | 2組      |
|-------------|---------|---------|
| 11:30~12:00 | 昼食      |         |
| 12:00~12:30 | ビデオ上映   | 現代の展示室  |
| 12:30~12:45 | ふるしき体験  | 歴史の展示室  |
| 12:45~13:15 | 現代の展示室  |         |
| 13:15~13:30 |         | ふるしき体験  |
| 13:30~14:00 | 歴史の展示室  | ビデオ上映   |
| 14:00~14:30 | 体験・自由見学 | 宅配便質問   |
| 14:30~15:00 | 宅配便質問   | 体験・自由見学 |

打合せにおける先生の要望

運輸の事前学習になるため、半日かけてじっくり見学し、いろいろなことを子ども達に体験させ、宅配便担当者に直接質問をしてみたいとのこと。

事前の準備

1クラスだったが、じっくり見学し全員に体験してもらうため2つのグループに分かれて見学を進めるスケジュールを組んだ。

当日のスケジュール

昼食の後、2班に分かれ交代で現代の物流展示室・物流の歴史展示室、ビデオを見、ふるしき体験を行った。自由に見学するグループと交代で、ペリカン便の担当者に直接質問する「質問タイム」を設けた。

ふるしき体験

風呂敷を広げながら、スーパーの紙袋やビニールの袋・宅配便に代わってしまった歴史を紹介。本やカードを回覧し、児童の輪の中央でふるしきバッグとビンの包み方を紹介した。個人差があって一斉に説明するのはちょっと無理があると感じた。その反面、本やカードを見ながらいろいろな包み方にどんどん挑戦していく子どももいた。本を回覧したり、風呂敷を見せながら話をしたのが関心を持つきっかけになり、風呂敷の模様などにも興味を持ったようだ。

### 運ぶをきわめる体験キット



風呂敷で包む

## 「現代物流重視」型

B校 児童数74名 見学時間1時間

### タイムスケジュール

|             | 1組     | 2組     |
|-------------|--------|--------|
| 11:30~11:45 | ビデオ上映  | 現代の展示室 |
| 11:45~12:00 | 歴史の展示室 |        |
| 12:00~12:15 | 現代の展示室 | ビデオ上映  |
| 12:15~12:30 |        | 歴史の展示室 |
| 12:30~13:00 | 昼食     |        |

### 打合せにおける先生の要望

見学時間が1時間しか取れないが、現代の物流に重点を置いて欲しいとのこと。

### 事前の準備

ビデオは1作品のみ上映することにし、「現代の物流」展示室の見学時間をできるだけ取るようにスケジュールを組んだ。

### 当日のスケジュール

ビデオ及び「物流の歴史」展示室を見学するクラスと、「現代の物流」展示室を見学するクラスに分かれて交代した。「物流の歴史」展示室ではワークシートを使用したが、かなりの部分を省略。「現代の物流」展示室では、運輸の学習途中ということだったので、ワークシートに沿って4つの物流ターミナルを詳しく紹介。特にトラックターミナルの役割について説明し、ターミナルの機能と、鉄道・トラック・船・飛行機輸送の利点及び欠点を簡単に紹介し、随所で使用されているコンテナにも触れた。ワークシートの使い方を詳しく説明したところ、子ども達は空欄に語句を記入するだけでなく、余白を使って一所懸命メモを取っていた。

### 全体講評

運輸の学習のまとめで新聞作りに取り組み、その際にはワークシートが役に立ったとのこと。ただ見学するのではなく、新聞作りという目的を持っていたため、有効に使うことができたのだと思う。

### 運ぶをきわめる体験キット

\*宅配便変身キット 物流産業を身近に感じてもらうと、物流で働く人の制服を着用するキットです。働く人が便利のように工夫がほどこされています。  
\*運びくらべ 昔の運ぶ道具を持ったり、背負ったり、担いだりできるキットです。荷物の重さは10kg。背負い梯子、背負いカゴ、天秤棒、米俵等。  
\*ふるしき体験 包装用具でもあり運搬用具でもある風呂敷を使ってみるキット。一升ビンなどを包んで運んでみます。

これらの体験を通じて、「運ぶ」という行為を再認識するきっかけになればと考えています。

### 質問タイム

ペリカン便の担当者を日通から招き、子ども達が疑問に思っていることを直接聞いてみるという時間を取った。活発に手が挙がり、質問の内容もペリカン便に限らず物流産業全体にかかわるものが飛び出し、担当者も子ども達の関心の高さに驚いていた。今後は宅配便だけでなく、米の輸送・自動車輸送・輸出入・税関業務・食品輸送などの分野でも担当者を招き、質問タイムを設定することもできるのではないかと感じた。

### 質問タイムで子ども達から出た質問の内容

- ・宅配便でなければどんなに重い荷物でも運べるの？
  - ・海外宅配便の数は一年間に何個ですか？
  - ・鉄道ターミナルからは一日に何本くらいの貨物列車が出発しているのですか
  - ・荷物の重さの制限はありますか。
  - ・野菜を輸入するときの手続きは？
  - ・物を運ぶのにどの乗り物が一番多く使われているか
- 先生のアンケートから

「当日の児童の日記を見ると、運びくらべや風呂敷の使い方などの体験学習が心に残ったようです。」

### 子ども達の感想（原文）

・私が一番興味を持ったのは宅配便の制服。この制服には、いろいろな工夫がされていて、びっくりしました。配達する方が物を届けやすいようになっている、配達の方にやさしい制服になっているんだなと思いました。

・一番心に残ったのは「風呂しき」です。昔は風呂しきで物を運んでいたなんて初めて知りました。風呂しきでお酒のピンを包んだり、箱を包んだりしました。私は家に帰ってお母さんにピンの包み方を教えてあげました。するとお母さんは「こんどおじいちゃんにお酒を持っていくときはこうしましょう！」と言ってくれました。私はこんなに役に立つとは思っていませんでした。今日はまた一つ知識が得られました。

### 全体講評

体験キットは導入が肝心であると感じた。風呂敷は子ども達になじみのないものであるため、関心を持ってもらえるような働きかけが必要であろう。包み方を紹介するのではなく、子どもが自ら包み方を工夫するようにした方が面白かった。とはいえ、子ども達の印象には残ったようである。見学時間が長く、数多くのメニューをこなしたため、消化不良になってしまうことが懸念されたが、子ども達の感想からは、体験はもちろんのこと展示にも興味を持った様子が伺えた。

## 「しらべ総合」型

C校 児童数60名 見学時間 2時間30分  
タイムスケジュール

|             |                |
|-------------|----------------|
| 10:00～10:30 | 映像展示室にてビデオ上映   |
| 10:30～11:00 | 1組は歴史・2組は現代展示室 |
| 11:00～11:30 | 交代             |
| 11:30～12:00 | 2階映像展示室にて昼食    |
| 12:00～13:00 | 館内自由・調べ学習      |



コンテナ船の模型

### 打合せにおける先生の要望

今までにいろいろなテーマで調べ学習をしてきたので、当館見学時にも子ども達に調べ学習をさせたいと考えている。今年度は学区内にある地域の市場のことをテーマに総合学習を行っているため、社会科の運輸の単元と総合学習のテーマとの接点が出てくることを期待したい。調べる時間を充分に取るため、昼食までに通常見学を終了し、午後は個別に調べる時間というスケジュールを組んでほしいとのこと。

### 事前の準備

事前にファックスで子ども達が疑問を感じたこと・調べたいと考えているテーマを送ってもらい、一つ一つの疑問に対してヒントカード( )を作成した。展示を見るだけでは解決できない疑問に対して、パンフレットやデータなどの資料を用意した。

#### ヒントカード

課題に対するヒントを記したカード。答えではなく展示の見方や調べ方を示唆するため、展示室のどこに行くと調べられるよ、図書コーナーの何という資料に載っているよ、といったことをわかりやすく記したもの。

### 事前に受取った子ども達からの質問(一部抜粋)

- ・昔はどうやって品物を運んでいたか。
- ・船はどれくらいの重さまで品物を乗せられるのか。
- ・輸入のとき事故があったら？
- ・宅配便ができる前は どうやって荷物が届いたの？
- ・飛行機や船がハイジャックされたらどうするの？
- ・コンテナを持ち上げる機械がこわれたら？

### 当日のスケジュール

全員でビデオを見た後に、クラスごとに分かれて「現代の物流」展示室と「物流の歴史」展示室を交代で見学した。「物流の歴史」展示室では、米俵かつぎの体験を行い、子ども達に大変人気だった。「現代の物流」展示室では、総合学習で地域の市場を調べているとのことだったので、トラックターミナルを市場と関連して解説した。昼食後は自分の疑問について調べる時間とし、個人で持参した調べ学習のテーマに沿ってそれぞれが課題解決に取り組み、こちらは答えを直接教えずにヒントカードを渡した。各展示室と事務室の合計3箇所ですべて質問を受け、子ども達からは絶え間なく質問がきた。

### 全体講評

調べる時間で提示したデータの中には、子どもにとって解読が難しいものがあり、一緒に見ながら解説したが、十分に説明ができなかった質問もあった。もっとわかりやすい資料を探す必要があると思った。また、多くの子ども達から一斉に質問が来た為さばききれず、ひとりひとりに対してわかるまできちんと説明できたが不安が残った。しかし、このようなやり方は、子どもの側からすると主体的に考えることになるため、よいのではないかと感じた。一対一の質疑応答の中で色々なことを発見し気付いていく子どもが多く、こちらでも楽しく対応した。子どもが興味を持つヒントや、もっと疑問を深めていけるようなヒントをだせるように工夫していきたいと思う。子ども達の質問にはハイジャックや事故に関するものが散見され、当時のアメリカ・ニューヨークで起きたテロ事件の影響を覚えてしまった。



子ども達がまとめた新聞

## 「大人数」型

D校 児童数106名 見学時間2時間45分  
タイムスケジュール

|             | 1組             | 2組             | 3組             |
|-------------|----------------|----------------|----------------|
| 9:15~10:00  | 歴史展示室<br>運びくらべ | 現代展示室          | ビデオ上映<br>宅配便質問 |
| 10:00~10:45 | ビデオ上映<br>宅配便質問 | 歴史展示室<br>運びくらべ | 現代展示室          |
| 10:45~11:30 | 現代展示室          | ビデオ上映<br>宅配便質問 | 歴史展示室<br>運びくらべ |
| 11:30~12:00 | 昼食             |                | 自由見学           |
| 12:00~12:30 | 自由見学           |                | 昼食             |

### 打合せにおける先生の要望

運輸の学習を始めたばかりで子ども達は多くの疑問を持って見学に来るが、子ども達個人の疑問から学習を発展させたいので、ワークシートは使わずに見学。これまで5年生の社会科では、農業にしても伝統産業にしてもその現場で働く人に会い、じかに話を聞くことで学習を深めているため、宅配便の担当者を紹介して欲しいとのこと。

### 事前の準備

あらかじめ学校からファックスで質問内容を送ってもらい、ペリカン便の担当者に質問の内容を知らせておいた。クラスごとに進度が違ったため、クラスごとに担当者と質問のやり取りができるようにスケジュールを組んだ。

### 当日のスケジュール

各展示室を45分ずつ見学。2階の映像展示室では、ビデオを見た後、ペリカン便担当者へ質問した。子ども達からの質問に答える形で、宅配便の仕組みなどの説明を行い、クラスによって質問は活発に出た。1階の歴史展示室では、模型を使って初期の鉄道貨物輸送の話(新橋駅)江戸時代の輸送、明治時代の輸送、昭和初期の輸送、昔の荷役・包装、米俵の話の後、体験に移り、俵担ぎから「運びくらべ」に展開した。興味を持って聞く子どもとそうでない子どもとの差があった。「運びくらべ」はみな道具に興味を示して盛り上がり、子どもの数が多かったためか、やや危険な場面も見られ、先生にも手伝ってもらって補助をいただく必要性を感じた。

「現代の物流」展示室は簡単に物流ターミナルの説明をした後、自由に見学するようにした。風呂敷体験キットと、ペリカン便のドライバー着用の制服を着られるように用意しておいた。制服は人気があり子ども達は競って試着していたので、ポケットのつき方や安全靴に注目するよう呼びかけた。

### 子ども達からの質問(一部抜粋)

- ・ペリカン便はトラックのほかに、カーフェリーや飛行機や貨物列車でも運ぶのか?
- ・運ぶときに気をつけていることは?
- ・ペリカン便の歴史は?



宅配便変身キット・宅配便3社の制服で変身!

### 全体講評

人数が多かったためか、子ども達は展示をよく見ることができず散漫になってしまったようだ。展示解説の内容を減らすなど、人数が多い場合の展示解説方法は再考すべきだと反省した。また、運輸の学習導入期の子ども達に対しては、運輸自体にもっと興味を持つような仕掛けが必要なのかもしれない。現場の担当者に直接話を聞くということは、子ども達にとって、物流現場の生の声に触れ、そこから様々な問題を考えていくきっかけになったようだ。

### 先生のお手紙から

「子ども達は見学内容を元に、話し合ったりさらに地域へと学習の場を広げたりしながら、物流についての学びを広げています」

「説明はもっと短くして、子どもから尋ねてきたら答えていただく方が良かったかなと思う。」



## 「自由見学」型

E校 児童数 42名 見学時間 1時間10分  
タイムスケジュール

|             |            |
|-------------|------------|
| 9:50~10:05  | ビデオ上映      |
| 10:05~11:00 | 班ごとに展示室の見学 |

### 打合せにおける先生の要望

運輸の学習は2学期で終了しており、まとめと6年生で学習する歴史につながるような見学を行い、グループ学習なので班ごとに行動させたい。説明はなくてよいが、子ども達から質問が出たら、ヒントを出して欲しいとのこと。

### 当日のスケジュール

ビデオを全員に見せた後、クラスに関係なく班ごとにワークシートの答えを展示室内で探す作業に移った。各展示室に学芸員を配置し、子ども達からの質問を受け付ける態勢をとったが、質問を受けてもすぐに答えを言うのではなく、ヒントを出すように心がけた。また、子どもからの質問を待っているだけでなく、こちらから積極的に「これはなあに？どうやって使ったと思う？」などと問いかけるようにした。

### 全体講評

一斉に説明するより、班ごとに何度も同じことを言うのは大変だったが、班行動などの少人数のほうが、子どもの反応を見ながら解説することができるため、子ども達の理解はより深まっているように感じた。ワークシートは自分達で記入するスタイルをとった。子ども達は調べられている様子で、展示をよく見ており、鋭い質問が出てこちらも面白かった。



運びくらの道具

### 運ぶをきわめる体験キット



天秤棒を担ぐ

## 「体験重視」型

F校 児童数 28人 見学時間 1時間5分  
タイムスケジュール

|             |       |       |
|-------------|-------|-------|
| 12:45~13:00 | ビデオ上映 |       |
| 13:00~13:15 | 歴史展示室 | 運びくらべ |
| 13:15~13:50 | 現代展示室 |       |

### 打合せにおける先生の要望

運輸の学習はすでに終了しているのので、体験などもさせて楽しい見学にしたいとのこと。

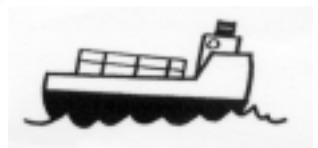
### 当日のスケジュール

見学時間が短いためビデオは「物流ってなあに」だけを上映した。「物流の歴史」展示室はワークシートを使用せず、明治以前の運輸の特徴（馬・人・船）と明治以後の運輸の特徴（鉄道・蒸気船など）を比べて簡単に解説し「運びくらべ」を展開した。米俵担ぎが一番人気があり、天秤棒を使ってモッコを運ぶためには身長が同じ位のパートナーにしないと、背の低い方に重さがかかって運びにくいことなどを体感していたようだった。何を運ぶためのものか、どうやって使うのかなど、道具に関する質問が多く出て、子ども達の関心の高さがうかがえた。

「現代の物流」展示室はワークシートを使って物流ターミナルの説明をした後は自由に見学。先生と一人の男の子が風呂敷に興味を持ち、その子どもが唐草模様の風呂敷を見学中ずっと使っていたため、子ども達が注目し集まってきた。家でも風呂敷を使ってみるとのこと。先生から、風呂敷の参考文献についていろいろ尋ねられ、学校の方へファックスした。

### 全体講評

ふるしき体験キットでは、唐草模様の風呂敷が気に入った子どもに、風呂敷は、レジ袋を使わない運動をしている人達も注目しているという話をしたところ、別の子どもから「これで買い物に行ったらカッコいいかも」という発言が聞かれた。このクラスは学校に帰ってからも風呂敷を使ってみるとのこと。博物館の見学だけに終わらず、見学で得た知識が学校生活の中に広がるのではないかということを感じた。先生方が面白がってくださり、子ども達も積極的だったので短時間ながらとても充実した見学だった。



## 今後の見学のあり方について

### 見学の傾向からいえること

ここ2年ほどの間の見学のあり方を見てみると、体験学習やしらべ学習、自由見学時間の重視という見学の傾向がかなりはっきり出てきた感があります。当館では、これまでどちらかという展示解説中心の見学対応を行ってきましたが、今後は社会科見学や授業時間内での見学、あるいは遠足での見学というそれぞれの枠組みの中で、新しい体験をしたり自分の目で見て調べ考える、といった見学方法をどのように位置付けていくかを、十分に考えていく必要があると感じています。

先生方から送られた見学後のアンケートやお手紙などを見ますと、ワークシートは、事前学習や事後学習に役に立つとご好評いただいているのですが、説明をただ聞きながら書き込むのであれば、必要ないというご意見もありました。確かに展示を見ることよりも書き込むことに終始してしまう子どももいるため、自分で展示を見ながら考えることを促すような、子ども達が展示内容に対して興味・疑問を持つきっかけを作るような内容のものを作ると考えています。

展示解説も賛否両論あり、子どもの興味のあるなしに関係なく受身になりやすいとの意見がありました。むしろ、子ども自身から出てきた疑問に対して答えてもらえれば、疑問に対する説明には子どもたちの主体的な学習が期待できるとの意見もあり、実際、子ども達の様子を見ていますと、自分の出した疑問に関することは熱心に聞いてきます。解説方法も練り直す時期に来ていると感じています。

従来型の「展示解説中心型」の見学案内から、一歩踏み出した見学の構成を開発することが当面の目標です。

### 「総合的な学習の時間」との関係

今年度からの「総合的な学習の時間」の本格的実施に伴い、学校での学習のありかたが大きく変化してきていることを受けて、学校教育とは異なった立場に立つ博物館の側でも、学校との間でいろいろな試みが始められています。当館でも、私立の企業博物館として学校教育との間でどのような新しい関係を持つことができるのか、大きな関心を持って見守っています。昨年度はこうした動向について考えるため、外部の委員をお招きして「物流博物館活用

## 物流博物館活用委員会

平成14年度は「総合的な学習の時間」などが導入された新学習指導要領実施に伴い、学校教育における博物館の利用に変化が生じることが予想された。この動きに対応し、総合学習及び教科学習における見学の際に利用できる、当館を活用した新たなプログラムを開発し、学校側へ提案することを計画した。そこで外部から委員を招いて委員会を設置し、平成13年秋から翌14年にかけて行った4回の会合の中で討論をした。委員は地元小学校の校長先生、民具研究者、博物館関係雑誌編集長、当館副館長、学芸員2名の計6名。以下に委員会の議事録を要約して紹介する。

### 第1回 委員会概要

総合学習の現状について校長先生に解説していただいた後、総合学習を念頭に置いた体験プログラムやキットのあり方について討議が展開された。

物流博物館では、総合学習について具体的にどのような対応を行っていくことができるのだろうか、という問いかけに対し学校側としては、子どもの疑問に即応できるような体制がありがたい。4年生でごみを学習するが、物流ではどのようなごみの対応をしているのか、子ども達に柔軟に対応できるような、そういうリソースを用意することが必要。という意見をいただいた。また、物流から子ども達の身近な生活へアプローチするには、包装資材や緩衝材、ペットボトルのリサイクル等を取り上げると面白いのではないかという意見が出て、次回はどんな切り口が可能なのか、各学校の事例を集めて検討してみることにした。

### 第2回 委員会概要

委員から、他の博物館の事例紹介として日本財団主催で行われた総合学習に関連するシンポジウムの紹介と、前回話題になった切り口の参考事例として民具学会で発表された内容を報告していただいた。館側からは、前回提案があった都内各小学校の総合学習への取組みについて事例を紹介した。討議の中で、総合学習で物流博物館をどのように使うのかは難しい問題だが、各小学校の総合学習の例をみると、環境、地域、国際理解などのテーマの中に、物流に関連する内容が出ているので、総合学習でも役立ち、また通常の社会科見学などでも利用できるような単発的なプログラムを組んでみたらどうか、という結論に達した。

### 第3回 委員会概要

これまでに出た意見をヒントに、物流博物館における総合学習プログラム「荷物とゴミ」「トラック観察」「むかしのくらしと運ぶ」「緩衝材」等を提示した。これをもとに具体的なレベルでの討議が行われた。当館で学校に提示できる写真・資料・データ・キットなどをわかりやすく紹介するために、また、当館に調べに来た子ども達に対しストレートに答えを教えるのではなく効果的にヒントを出す為に、博物館資源をカード化したらどうかという意見が出た。

### 第4回 委員会概要

物流博物館で出せる資料を分類してカード化してはどうかという第三回の提案を受け、体験キットと、図鑑・データ・書籍などの資料を提示するタイプのものを、60までの目次というかたちで提示した。分類の仕方、カードの表現の仕方、先生方へのPR方法などについて討論した。

委員会」という集まりを作り、館職員ともども「物流博物館が学校教育に対してできることは何か」という問題について考えてみました（前頁参照）。

当館においてはまだ本格的な継続性のある取り組みはありませんが、博物館の資料、展示、施設、職員を活用した新鮮な試みをぜひ実現したいと思っています。



### 新しい学習指導要領との関係

周知の通り、平成14年度の新学習指導要領による教科書の改訂にともない、当館の小学生の見学者の大多数を占める小学5年生の場合、社会科の教科書から当館にかかわりの深い「運輸」の単元がなくなりました。その結果、「運輸」が農業・水産業や工業の単元の中で分散して取り上げられるようになり、他方、これまで大きなスペースが割かれていた「宅配便」に関する記述がほとんど消えたため、「運輸」を一単元として学習していた時に比べると教科書に占める割合は減少する形となっています。しかしながら、「運輸」が農業・水産業や工業などの産業と切り離すことのできない重要な産業であるとの側面は強調されており、学習内容としては各教科書とも「運輸」に関する重要事項をきちんと学習できる構成となっているようです。

とはいえ、学習する側の子ども達にとっては、運輸の内容が分散して登場するため、知識としてまとまったイメージを作りにくいのではないかと印象があります。そこで、物流博物館の見学では、こうした分散した学習内容をまとめる形で理解を深める手助けができればと考えています。

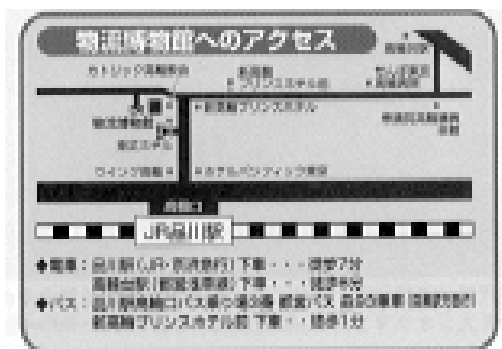
### これからの見学のあり方

しかし、博物館という「場」で見学を行う以上、そこでの体験が教科学習と変わりのない内容であれば、わざわざ来館していただいた意味がなくなってしまいます。博物館という装置を利用して、そこ

に蓄えられた資源をいかに活用するかを考えたいと思います。その結果、社会科見学などの場合、見学内容が教科学習の内容から多少外れても、発見したり学んで欲しい本質的な内容に共通するものがあれば、学校へ帰ってからの学習やその後の生活のさまざまな局面で、子ども達にとって何ほどの糧となるのではないかと考えます。現在、数は少なく不十分ではありますが、展示以外に体験キットなどで行っていることも、そうした意図に基づいています。これからは、新しい見学のあり方を考えていく中で、このような体験的・発見的な要素のある展示キットを少しずつでも増やしていき、展示に厚みを持たせていきたいと思っています。このことは、博物館における見学メニューの多様化を進め、選択肢を増やすことにもつながると考えます。これらが子ども達が自分の言葉で考えるひとつのきっかけとなればよいと思います。

### 物流博物館として何を伝えたいか

こうした活動を通じて、最終的には物流博物館が「物流」というテーマを入口として子ども達に何を伝えたいかという意図は、明確に持つべきであると考えます。自分達の便利な生活が見えない場所でさまざまな事柄と関係を持ち、多くの人々の力によって支えられていること、また、人間が生活を豊かにするために、時代の制約の中で最大限の工夫や努力を重ねてきたこと、これらが物流博物館で学ぶことの根底にあるべきだと考えます。そのように言葉で表現しなくても、何かを感じ取ってもらえるような、そしてわくわくするような発見のある見学をぜひ実現したいと願っています。



### 物流博物館

〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15  
Tel 03-3280-1616 Fax 03-3280-4385  
<http://www.lmuse.or.jp>

物流博物館は日本通運(株)を母体とする(財)利用運送振興会が運営しています。